

国際地域文化 調査成果発表会

PROGRAM

開会のあいさつ	13:00
『吉岡の日記』を読む	13:05
街にたなびく広告たち —考現学から読み解くロードスケープ—	13:45
Life～鳥取の“風の人”にきいてみた～	14:25
————— 休 憩 —————	
湖山周辺の歴史的環境復元	15:15
澤田美喜と占領期の子どもたち —エリザベス・サンダース・ホームと鷗鳴荘—	15:55
閉会のあいさつ	16:30

2020年1月25日(土)

開場 12:30 開会 13:00

鳥取大学 地域学部棟5階 5160講義室

入場無料・来聴歓迎

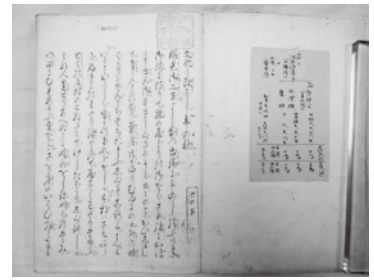


1

13:05～

『吉岡の日記』を読む

今回、私たちは『吉岡の日記』について調査を行いました。この文書は、6代鳥取藩主・池田治道の娘（7代・斉邦の妹）である姫様姉妹が吉岡温泉へ湯治に向かう道中での様子や当地での出来事について記したものです。作者は鳥取藩士の鷺見休明です。私たちは、この文書の内容を正確に理解するために改めて翻刻作業を行いました。その過程で得た知見をもとに、作中に込められた鷺見の思いや、彼が目にした事物などについて考察します。



『吉岡の日記』（鳥取県立図書館蔵）

2

13:45～

街にたなびく広告たち —考現学から読み解くロードスケープ—

日本の店舗には、看板やポスターの他にも宣伝には欠かせないアイテムがあります。それは、幟（のぼり）・旗・横断幕・垂れ幕・タペストリーといった「たなびく広告たち」です。私たちの班は、湖山街道と鳥取南バイパス、そして若桜・智頭街道にある全ての「たなびく広告たち」を調査し、色や大きさなど計14項目について分析し、特徴や傾向を調べました。発表では、分析の結果に加え、項目間の関係、背景や要因についての考察も報告します。



鳥取大学ののぼりと(広報センターにて)

3

14:25～

Life～鳥取の“風の人”にきいてみた～

「まちづくり」グループは文献調査や鳥取へ移住してきた人々（風の人）へのインタビュー調査を行いました。「夢を追いかけて」という移住者もおられるれば、思いがけず鳥取へきて仕事も予期していなかったものに携わっている人もおられます。そんな風の人が鳥取で暮らす工夫や楽しみ方と、地域との関わり方を考察した結果を発表します。



移住者とのインタビューを終えて

4

15:15～

湖山周辺の歴史的環境復元

鳥取大学湖山キャンパスのある濃山台地には、古来より人々に利用されてきた歴史があり、いくつかの遺跡が残されています。そこから出土した遺構や遺物をもとに、湖山地域がどのような歴史をたどってきたかを検討しました。特に、築造時期が不明な大熊段古墳については、その解明のために発掘調査を行いました。また、大熊段古墳には戦時中に掘られたと伝承される溝などがあるため、その性格も追究しました。それらの調査の結果を報告します。



大熊段古墳発掘調査風景

5

15:55～

澤田美喜と占領期の子どもたち —エリザベス・サンダース・ホームと鷗鳴荘—

私たちは、占領期に外国の兵士と日本人女性の間にもまれたいわゆる「混血孤児」を、我が子のように保護し育てた澤田美喜という女性について調査しました。彼女が設立した孤児園「エリザベス・サンダース・ホーム」の歴史、そして鳥取県岩美町にある澤田家の別荘「鷗鳴荘」とホームとのつながりについて、文献調査、地域の関係者や専門家への聞き取り、県内外での施設調査などを行いました。これらの結果について報告します。



岩美町熊井浜での現地調査